

報告書

行先	京都府綾部市 (1/20)
テーマ	ライド・シェア事業
期日	令和7年1月20日(月)~令和7年1月22日(水)
報告者	中島 信二
概要	綾部市は京都府の中央北部に位置する田園都市で、美しい自然環境や里山、歴史文化が数多くある地域である。人口約3万人、面積は約247km²である。 「GUNZE」創業や「大森」の南進、世界連邦都市宣言など、綾部市は全国的な人々に賞賛と過疎、高齢化の中で、公共交通でも鉄道や路線バス等の縮小、廃止が進み、特に高齢化による免許返納等で市民の移動手段をどう確保するかが大きな課題となり、市の中心地、東部4地区(奥上林、中上林、口上林、小家)で移動手段の確保を検討。 特に中心部にある小家地区について、東部地区の交通をくらしと考える会、小家分科会が運行主体となり、小家地区自治会連合会、NPO法人ふたつのが運行協力をして、運行体制づくり、公共交通機関である、あやバスとの連携をはかり、定時、定路線での実証実験を計画。基本的にボランティアで実施するため、運賃は無料の実証実験。車両は7~8人乗りのワンボックス。ドライバー確保が課題であり、スムーズに運行とは行っていない。
所感	ライドシェアというテーマだったが、確かにNPO法人を立ち上げて運行するところになっている事について大変詳しく聞いた。 あやハセ市の相互運行しているデマンド交通、乗合バスの方法、示し評価がある。確かに行政で運行であれば、政府側では心配がある。要は市民の本音の支援策とあやハセ市の乗合バスをもう少し改善すれば、あやハセは、

報告書

行先	京都市山科区 (1/21)
テーマ	ライト・リエール事業
期日	令和7年1月20日(月)～令和7年1月22日(水)
報告者	中島 信二
概要	山科区 人口 21,531人 (1.187世帯) 山科区東部に位置する山、あいの丘陵地(5.40頃)に南行き止まり急勾配(最大斜度14%)の坂道があり、小金塚地域にある公共交通機関は京阪バスが通っている。この地域の南端から運行している。この小金塚地域の生活交通の確保を目的に自治連合会の要望に基づき、本市の補助を受け京阪バスの実証運行が小金塚地域内でも始まった。本格運行に至る令和3年度中に当座、山科区役所、地蔵の3箇所で常設の乗降所を確保する。利用者の負担の少ない住民ボランティアによる無償運送を実施することになり、令和4年4月1日より実施される。さらに令和6年度からは高齢化が進む中、安定的に運転士を確保し、持続可能な運行を目指す。山科地域交通会議での合意を経て国交省の有償旅客運送へ移行して現在実施中である。
所感	綾部市と同様、地域住民の要望から始り、自治会等のボランティアを基本としているのは評価したいと思う。 今回の視察において綾部市、山科区共に全市、全市民対象ではなく一部地域のみで事業を行い、将来的に全市の事業としての研究を計画中。